

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	大崎上島町
所属名	健康福祉課
担当者名	岡崎幸子
連絡先(電話)	0846-62-0301

タイトル	認知症対策の総合的推進
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

現状と課題

大崎上島町の高齢者人口は徐々に減少しているが、認知症高齢者の人口は全国的に増加すると予想されている。認知症についての理解が浸透しつつあるも、認知症についての偏見や思い込みは依然として存在し、誰もが認知症になっても希望を持って地域で暮らせるよう、認知症への理解や対応力の向上について努めていく必要がある。

第9期（令和6年度）における具体的な取組

- 認知症サポーター養成講座の実施
- 認知症ステップアップ講座の実施
- 認知症カフェの開催・充実
- 広報等による認知機能低下予防に資する可能性のある活動の周知
- 広報等による役割・生きがいの効果についての周知
- 認知症に対する理解と認知機能低下予防プログラム学習会の実施
- 認知症ケアパスの改定と周知
- 専門医による個別相談会
- 認知症初期集中チームの設置
- 認知症地域支援推進員の設置
- 認知症の人と家族の会の開催
- 認知症高齢者等の支援に関わる竹原警察署と大崎上島町の相互連携に関する事業の継続運用
- 徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事前登録事業の継続
- 認知症の人と家族の会の開催
- チームオレンジ活動の実施
- 認知症サポーター活動の実施
- 認知症講演会の実施
- 認知症地域支援推進員と県の若年性認知症コーディネーター、若年性認知症サポートとの連携支援体制の整備

目標（事業内容、指標等）

対 策	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	目標	目標	目標
認知症地域支援推進員の設置	1 人	1 人	1 人
認知症カフェ	1 か所	1 か所	1 か所
認知症サポーター養成講座（住民）	1 回	1 回	1 回
（海星高校）	1 回	1 回	1 回
（地域役員等）	1 回	1 回	—
（地域ボランティア）	1 回	1 回	—
認知症ステップアップ講座（住民）	1 回	1 回	1 回
（地域役等）	4 回	1 回	1 回
（地域ボランティア）	1 回	1 回	1 回
認知症講演会	1 回	1 回	1 回
認知症ケアパスの改定と周知	1 回	1 回	1 回
予防に資する可能性のある活動の周知	2 回	2 回	2 回
広報による役割、生きがいの効果の周知	1 回	1 回	1 回
認知機能低下予防プログラムの実施	1 クール	1 クール	1 クール
専門医による個別相談会の実施	3 回	3 回	3 回
認知症初期集中チームの設置	1 か所	1 か所	1 か所
認知症初期集中チーム会議の開催	2 回～必要時	2 回～必要時	2 回～必要時
認知症の人と家族の会の開催	1 か所	1 か所	1 か所
支援に関する竹原警察署と相互連携事業	継続	継続	継続
徘徊高齢者等 SOS ネットワーク登録事業	継続	継続	継続
若年性認知症サポートルームとの連携支援体制整備	1 か所	1 か所	1 か所
チームオレンジ活動の実施	1 か所	1 か所	1 か所
認知症サポーター活動の実施	1 か所	1 か所	1 か所

目標の評価方法

事業実績評価

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)

(実績評価)

実施内容

○認知症地域支援推進員の専任設置 (R1.5～)

設置済み

○認知症カフェ

R6年度 のべ利用者数 当事者 67人 家族 88人 地域 27人

○認知症サポーター養成講座の実施

R6年度 開催数 3回 参加者 61人
住民 9人
区長 18人
大崎海星高校1年生 34人

○認知症サポーターステップアップ研修の実施

R6年度 開催数 5回 参加者 102人
住民 19人
民生委員・食推 (3回) 83人

○認知症講演会

R6年度 開催数 1回 参加者 145人

○認知症ケアパスの改定と周知

R6年度認知症地域支援推進員により、H30年度に作成したケアパスを、毎年度見直しを行い、関係機関に配布した。また、町のHPに掲載した。

○町内で実施されている認知症予防に資する可能性のある活動の周知 2回

R6 広報記事の掲載 2回

○広報等で役割や生きがいの効果等を周知

R6 広報記事掲載 1回

○認知症に対する認知機能低下予防プログラム学習会の実施

R6年度 開催数 1クール5か月間 1回 参加者 9人

○認知症相談会

R6年度 専門医による個別相談会の実施 開催回数3回 相談者数8人

○町広報に認知症に対する理解・正しい対応・利用できるサービス等の普及啓発

普及啓発のための記事を毎月掲載した。

○認知症初期集中支援チーム活動の実施

R6年度 支援ケース 0件 延べ支援回数 0回 (介護保険サービスにつながったため介入せず)
チーム員会議 4月 1回

会議での検討ケース 実件数 0件

○認知症の人と家族の会の開催

R6年度 参加家族延べ人数 59人

○認知症高齢者等の支援に係る竹原警察署と大崎上島町の相互連携に関する事業の継続運用

R6年度 情報提供受理数 5件

○徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事前登録事業の継続

R6年度 登録者 1人

○町の認知症地域支援推進員と県の若年性認知症サポートルームとの連携支援体制の整備
認知症ケアパスに若年性認知症サポートルームについて掲載

○チームオレンジ活動の実施

R6年度 0か所

○認知症サポーター活動の実施

R6年度 認知症カフェの開催

自己評価結果 【 】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)

○認知症地域支援推進員の設置により、事業等は継続して行えている。

○認知症カフェは新規の利用者や地域住民の参加が増えた。

○認知症サポーターの養成に関しては、一般住民、高校生は予定通り行えた。さらに今年度は地域の役員である区長向けに開催した。新たにキャラバンメイト2名が加わり、寸劇等を取り入れ充実した内容となり、ステップアップ講座も、寸劇、グループワークを加え、チームオレンジに向けて実際の支援活動の意識づけを図った。

○認知症講演会は「認知機能が低下し始めたときの対応」を演題にし、予想以上の参加者があった。

○認知症ケアパスの改定を行い、関係機関、相談会参加者へ配布したが、地域住民への周知には至っておらず、活用に向けての説明をしていく必要がある。

○広報に認知症予防に資する可能性のある活動について紹介、役割や生きがいについて紹介した。

○認知機能低下予防プログラム学習会は令和5年度に続いて、くもんの教材を用い脳の健康教室を開催した。

○専門医による認知症に関する相談会は予定通り開催できた。

○町の広報には、認知症に対する理解、正しい対応・利用できるサービス等の普及啓発のための記事を毎月掲載した。

○認知症初期集中チーム活動の件数はなく、早めに介護サービスや受診につながっている。

○認知症と家族の会は予定通り行われており、認知症に関する講演会の講師が訪れ、家族へのアドバイス等をいただいている。

○竹原警察署と大崎上島町の相互連携に関する事業については、継続し、関係機関との連携を図っている。

○徘徊高齢者等 SOS ネットワークの事前登録も継続して行えている。

○若年性認知症サポートルームとの連携については、若年性認知症のケースがないので、認知症ケアパスへの掲載にて案内している。

○チームオレンジ活動の実施

チームオレンジは結成していないが、認知症カフェがその役割を果たしているので、令和7年度中には、オレンジカフェをチームオレンジとして活動を始める。

○認知症サポーター活動の実施

認知症カフェの活動、また認知症ポーターが近隣での支援を行っているケースが存在する。

課題と対応策

認知症の進行を遅らせるために早めの対応について普及啓発していくとともに、認知症になっても希望を持って地域で暮らし続けることができるよう認知症に対し地域全体での理解を深めていく。認知症の人や家族に対し、支援者側の人口が減っていく中で、負担なく支援活動が続けられるような仕組みを考えていく必要がある。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」